



監觴魚底抄

くまのり

特別
~12
1077
3





利
1077
23



1077
3



幕末 下

さし又おろし法

^秘 中十一段又馬頭と網也

^秘 又物浪とふさのらふ物也 木拵

乃此事

幾口人不足乃女とりもく

操も又ゆ危く

及ぬるくとりあしを美めさる

ウハハカ井ノ名心ニテナリ

名もくさう くらよきい海雅
くしあまのいふ海くらくそ
昔終るさくふあもい音^{カホ}白^{カク}も
いふあ) 25くひありしあしりも
あうくあまうれさあぬあふ
いふさあさくしれいふいふ
あま(あ)れふくろとくしあ
いふあ))

何乃^ケ流^カも^タ早^ク者^ナあふ
くあもいふあ
いふ事^事いふあいふあ(あ)うあ

私^シ之^ノ西^シ河^カの^ノ水^ミ表^シ露^ツ川^カの^ノ奔^ハ命^メ
母^ハ後^ノ成^ル瑞^ク判^ハぬ^ルあふあ
あふああああああああああ
あふあああああああああああ

とれいびつ物よ

拾くひは〜女とちつみ海ふらふ

から

ららふ〜むらさき花〜ふらふ

ま〜らふ〜むらさき

時〜らふ〜むらさき

はらふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

拾くひ〜むらさき

〜らふ〜むらさき

本松乃く細く

教とくあかむ

真心の海

本松乃女流流好色乃

神(乞)る歌の心

可(それ)れ

く

それ

きし

の

り

教とく

信

心

人の

く

大

何 仕之細之飛くも若く歌る

又此

昇 馬乳くし縁ありくはくし

本細そとくはあはらうし

馬乳此又よ

何 馬乳又よくはあはらう

よくはあはらう縁ありくは

何

新云身成り関中母る願う又

何 馬乳くしとあつ又馬乳の太

細くさるの馬乳とあつと

や馬乳くし本枯の女此あはら

くはあはらう馬乳の太く本枯

の女馬乳くしとあつと

馬乳此あはらう馬乳

あはらう馬乳くしとあつと

何 馬乳くしあはらう馬乳

あはらう馬乳くしとあつと

并 約也

あのみ教よ (かー Simo Simo)

こらぬの象

本松の女れ象

よさぬ后

大酒の象 (りさし ちあぬん)

よさぬ后

鳴門のちり (はるる 物さぬ)

かー Simo Simo

美河の女れり (りさし ちあぬん)

るはるる (りさし ちあぬん)

あまの象

はららと (りさし ちあぬん)

よさぬ

池の味もさる

本松の女れ象 (りさし ちあぬん)

はよぬのり (りさし ちあぬん)

美河のちり (りさし ちあぬん)

あゝ音よ〜〜〜

作終

水鏡とら〜約方〜
その直達流の事と
子りて乳〜
よ〜
用は但箋曰〜
のあ〜
あ〜
縁〜

井のあ〜

あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

すしうとて

爰^{スロ}止

私^ニ心^ヲあつ

ん

とれ

誓^スふれ

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

苑つ〜と聲〜
河とら井〜
新〜
と向〜

催馬糸律〜

私之月乃事〜

とゆえ

飛鳥井〜大和國 飛鳥川

本の陰源〜
宅物〜
その〜
も〜
も〜
か〜
京〜

瓊萃玉英

小海... 文選大人賦之... 瓊萃... 食... 文章... 瓊萃... 前漢 司馬相如傳大人賦 咀嚼芝英... 瓊萃... 音の祈小食也 花名に

文選と... 幸式... 文選と... 幸式...

和琴... 和琴... 伊勢... 伊勢... 伊勢... 伊勢...

乃よふくや
まふく

鴨長明記云 和琴とてい

う六法とていふくして月けると

後一琴よ作りていふくして伴う

上総国の古曲ありて彼よふ

古住よりいふくして六法神一樂

料矣とていふくして

或妙甚とていふくして

すかあつとていふくして け美下島

を

けあつとていふくして

律ありとていふくして

花鳥井の律の方とていふくして 花の双調

律の平調とていふくして

律を新とていふくして又律の陰

みれとていふくして時節の律を

月けとていふくして

陰陽ト分レニ
夏春ニ属ス
冬秋ニ属ス

不問之

お屋々々々

或物御説の事ら乃とて女の

とよき事にてあやまらぬ事

うらやま

とらうら

幕中一うら

とよき事にてあやまらぬ事

或物御説の事ら乃とて女の

物と云々 又爰終も昔より

はらばらとてあやまらぬ事

ららばらとてあやまらぬ事

妙なる事にてあやまらぬ事

義口和琴の口平の行方れと

唐の樂の和合せとてあやまらぬ事

後唐の樂の合奏とてあやまらぬ事

の事らとてあやまらぬ事

口平とてあやまらぬ事

妬^{クダス}辱^{ガレス}

一説^一石妬阿やまねの説

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シ業^ノ

為^スる^ル事^トは^ハ妬^{クダ}の^ノ如^シに^ニ別^レ

か^クの^ノ如^シに^ニと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

て^テ妬^{クダ}の^ノ如^シに^ニと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

説

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

男^ノの^ノ如^シに^ニと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^ス

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

男^ノの^ノ如^シに^ニと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^ス

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

妬^{クダ}の^ノ中^{ナカ}に^ニす^スと^トは^ハ後^ノの^ノ如^シに^ニ

ついでと道へいりりたつての歌
あふとこも我こそ多うねあふ
てんや物れとやこの心
とてあふれつゝ向ふらねまゝい
しつゝ程等しき心へしつゝ
候 注 弄 集 与三首の同本一
同よ付兼と用

千五十八
らやう候も丹と書つゝあふま
つれまゝいしつゝあふま

定 家 江 中 の 六 菊 と あ ふ ま
新 行 中 の 心

此 弄 の 心 と あ ふ ま と あ ふ ま
つ 道 中 の 心 と あ ふ ま
候 注 弄 集 与三首の同本一
あふまゝいしつゝあふま
あふまゝいしつゝあふま
あふまゝいしつゝあふま

白の空の雲は白くも我こそは
乃の空の雲は白くも我こそは
多しと云われとらふ名にれん
好しと云われの善きと云え物に
よ

存秘と云われとらふ名にれん
乃の空の雲は白くも我こそは
多しと云われとらふ名にれん
好しと云われの善きと云え物に
よ

これと我ありて作らぬ如きは
よ

或物之けと云われ親なり母は
四月の月のはじめに月ありて
よと云われとらふ名にれん
好しと云われの善きと云え物に
よ

菊と物つりておもしろい花と見るに
多くとつりておもしろい花と見るに
これとつりておもしろい花と見るに
花勝とつりておもしろい花と見るに
いふれとつりておもしろい花と見るに
いふれとつりておもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに

^花おもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに

事とおもしろい花と見るに
いふれとつりておもしろい花と見るに

^花おもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに
いふれとつりておもしろい花と見るに

いふれとつりておもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに
おもしろい花と見るに


~~~~~

~~~~~

男花の~~~~~

~~~~~

~~~~~

私心~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

魚何~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



女聲 けりけりけりけり

関書 月流のささるる名をいひ

本松元方女 吹行るる若家帯の道と

けりけりけりけり

秘 けりけりけりけり

けりけりけりけり

けりけりけりけり

我が教まらぬるさるる

この美しきさるる

私一二乃白け節乃存と本松よ

吹あせしるるさるる

けりけりけりけり

とけりけりけりけり

祇注よ 現うともらるる

関書云ふとの美しき葉れん

けりけり

の白あさかきけりけり

女 けりけりけりけり



る歌きこて思ふありしに  
乃ら書ありしに故

こころごとし

周俗通曰秦也或曰蒙恬所  
造五絃築声并凉列箏形  
如琴不知改或曰秦多善箏者  
故曰秦声釋名箏施絃高箏  
々然或物云漢恭帝使素女  
鼓五十絃琴声悲帝禁不得

破瑟為二十五絃一丈三尺秦始  
皇時破二十五絃為十三絃今箏  
是也昔以竹造之其後以桐造  
之也

こころの調

盤涉調

篋曰人の和

子の平調ありしに今も平調と  
あれし南調子とありしに平調と  
盤涉といふに律とて甲し







まじりあはしむるはさしむるはさしむるは  
けりしは乃女の持とくまひは  
なむるは

多時ころらぬは

<sup>并</sup>あよ木乃屋縁ありとのまると  
りしはさしむるはさしむるは  
用ひしとの差別しけりしは  
さしむるは  
さしむるは

乃くも子細さしむるはさしむるは  
まじりあはしむるはさしむるは  
さしむるは

多時ころらぬは

或物御鏡とすしむるは  
あよ木乃屋縁ありとのまると  
りしはさしむるはさしむるは  
用ひしとの差別しけりしは  
さしむるは



うらりおのまゝのしほり

敏くといひしは年々

いふ時のまゝいふは女

の歌れらぬのまゝいふは

うぬあつとらり月夜

心しあはるゝお

いふのまゝいふは中絶

と

はるらりし書

本枯女と招く

わいふ時

る歌今よりいふは時

い

いふは

本枯の女れいふは招食の女

くくてもれ本枯女と

い

いふは



引歌れ連々年のよる程深き  
乃すさるる名ある女也  
あつし  
あつし

此名のまじり

引歌う海と歌中持と  
こま

あつはあつあつと萩乃落らうと  
あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

校もとろくしよるけの白鳥

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

紙の萩の落玉はの萩行海

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

原乃才持とこのあつとあつとあつと







年ととも七年とともいふより源  
中君ととも十六歳とともいふ  
いふとともいふとともいふ  
齡とともいふとともいふ  
初とともいふとともいふ

<sup>昇</sup>統くられとも志井ととも年一教と  
多しとともいふとともいふ  
而後とともいふとともいふ  
<sup>秘</sup>馬以源中とともいふとともいふ

先とともいふとともいふとともいふ  
何けて今とともいふとともいふ  
て思ひとともいふとともいふ  
策口とともいふとともいふ  
川又源中とともいふとともいふ  
とともいふとともいふとともいふ  
とともいふとともいふとともいふ  
七年の先とともいふとともいふ  
策とともいふとともいふとともいふ



志之年<sup>ヲ</sup>視<sup>レ</sup>教<sup>ノ</sup>業<sup>ヲ</sup>樂<sup>シ</sup>群<sup>ル</sup>五年<sup>ヲ</sup>  
視<sup>レ</sup>博<sup>ク</sup>習<sup>フ</sup>親<sup>ク</sup>師<sup>ト</sup>七年<sup>ヲ</sup>視<sup>レ</sup>論<sup>ヲ</sup>子<sup>ヲ</sup>取<sup>リ</sup>  
文<sup>ヲ</sup>謂<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>小<sup>ニ</sup>成<sup>ス</sup>九年<sup>ヲ</sup>謂<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>成<sup>ス</sup>問<sup>フ</sup>去<sup>リ</sup>  
云<sup>フ</sup>多<sup>ク</sup>年<sup>ノ</sup>の教<sup>ト</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>ね<sup>テ</sup>行<sup>フ</sup>り<sup>テ</sup>自<sup>ラ</sup>  
然<sup>ル</sup>よ<sup>ク</sup>此<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>別<sup>ニ</sup>行<sup>フ</sup>り<sup>テ</sup>と<sup>モ</sup>多<sup>ク</sup>なり<sup>ト</sup>河<sup>ノ</sup>

と記<sup>ス</sup>る<sup>ル</sup>者<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>。

教<sup>ノ</sup>奇<sup>ニ</sup>ス<sup>キ</sup> 梳<sup>タ</sup>タ<sup>タ</sup>ん 好<sup>ム</sup>多<sup>ク</sup>す<sup>ル</sup>こと<sup>ハ</sup>い

る<sup>ル</sup>や<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>河<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>い<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>女<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>あり

い<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>つ<sup>ラ</sup>よ<sup>ク</sup>ぬ<sup>ル</sup>。

髪<sup>ヲ</sup>曰<sup>フ</sup>嬌<sup>ト</sup>

河<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>い<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>女<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>あり

は<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>女<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>あり<sup>テ</sup>月<sup>ノ</sup>流<sup>ル</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>い<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>

事<sup>ト</sup>す<sup>ル</sup>わ<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>河<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>い<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>女<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>あり

わ<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>河<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>い<sup>ハ</sup>す<sup>ル</sup>女<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>あり



さらしきんくらのとらふりし女  
しらしききき自然のらしき免  
のわら時男の名よきしとらふりし  
我物あしきらししとらふりし  
ましききききききききききき  
きんくらのとらふりしとらふりし  
とらふりしとらふりしとらふりし  
あり  
しきき

誠也 心即しとらふりしとらふりし  
われとを けしとらふりしとらふりし

中將まきのとらふりしとらふりし  
前十二段也

次中ねしとらふりしとらふりし  
たよとらふりしとらふりし

君もよしとらふりしとらふりし  
海しとらふりしとらふりし  
心



さうさうさう

源も身中よの願紙  
と物話の作者のうへ細

いばうさう

源の細(うへ)もたても難めよ  
なまこころのうへ  
くちまのうへ  
な中(うへ)もたても  
うへ(うへ)のうへ

うへ(うへ)のうへ

うへ(うへ)のうへ

源十(うへ)のうへ

源(うへ)のうへ

源(うへ)のうへ

源(うへ)のうへ

源(うへ)のうへ

源(うへ)のうへ

源(うへ)のうへ











かあつらう中なるも名くは  
まじ

<sup>秘</sup>はたつらうにあらはれりて  
うらやましくもなれ  
うはるるも

まじらう

<sup>1</sup>図書行末にけりて  
まじらうも

花の鏡は

ねえも

<sup>秘</sup>ク新止のあやそと  
信中將也

うらやましくもなれ

うらやましくもなれ

うらやましくもなれ

うらやましくもなれ

<sup>1</sup>中なるも

うらやましくもなれ

うらやましくもなれ



と

これ見<sup>見</sup>のうまうま

は見ゆゆ

頼中ぬわ乃方二条相国は

そのあつて

くまうて

いせさう

しるる

あつて

日右進う

ん

後

は事と歌中の後

〜

〜

二条の大臣乃

しと

あつて



多々し〜と〜と〜と〜と〜と  
為の事善と〜と〜と〜と〜と  
と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と

ク〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

ま〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

及中〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

歌中〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と

花〜と〜と〜と〜と〜と



とくちりてあつたはな

<sup>秘</sup>後より約しつてありてのほり

みの約ふこと人の心とあは

まこと保のまじりと名得く

中なるの毎くよましく新ん

うりあつてつるまじり

のさしつたまじり

事よまじりつてあつた

らつて約しつてあつた

らつてあつたまじり

まじりつてあつた

将のあつたまじり

らつてあつた

らつてあつた

らつてあつた

<sup>母虎々々上</sup>

あつたまじり

父の上頭中なる



山見

山勝 山下 下

恒本

紙の字をいふは

とていふは

事しるは

事しるは

事しるは

事しるは

紙の字をいふは

事しるは

山見

山勝 山下 下

紙の字をいふは

事しるは

事しるは

事しるは











かきこゝろ秋と暮のまじりて  
し海邊のうらとらめはあつたれ  
きんめいとのせぬあはれ侍  
しきいぬゆゆゆゆゆゆゆゆ  
此石書

七種九内

何とて——あはれと秋の夜は海  
やうら甲のうらゆらゆら  
とて——ゆらゆらゆらゆら  
あつたるあつた——あつたるあつた

かきこゝろ——又麻乃海とて  
かきこゝろ——あつたるあつた  
らつたるあつたるあつたるあつた  
らつたるあつたるあつたるあつた  
のあつたるあつたるあつたるあつた  
らつたるあつたるあつたるあつた  
と我々のあつたるあつた  
らつたるあつたるあつたるあつた











るい思ひのちか〜ぬ（きりなりのん  
さゆ〜三葉〜り〜い〜ゆと  
んぬ悟〜あ〜り〜あ〜り  
う〜い〜ゆの〜い〜ゆ〜  
はは〜いの紀〜た〜乱〜り〜よ〜れ  
ら〜ら〜ぬ〜い〜ゆ〜い〜ゆ  
ゆ〜ゆ〜て  
又歌中持の歌〜  
海〜ゆ〜い〜ゆ〜い〜ゆ〜

は事〜り〜た〜りのま〜い〜ん〜  
う〜い〜ゆ〜て〜ゆ〜葉〜ら〜り〜ゆ〜  
原中〜の〜表〜の〜り〜た〜乱〜と〜ん〜ゆ〜ゆ〜  
〜ゆ〜

ら〜ゆ〜れ〜ゆ〜い〜ゆ〜  
<sup>の</sup>伶伴 又龍鏡 流離 日本紀  
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜



あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ















本松乃女の月流る *bonriki*

*bonriki*

カ *bonriki* *bonriki*

*bonriki* *bonriki*

中 *bonriki*

*bonriki*

*bonriki*

前 *bonriki*

*bonriki*

*bonriki*

*bonriki*

*bonriki*

下 *bonriki*

*bonriki*



こと也

さうらうさうらう女と

大吉祥天女

在 金光明最勝王經

吉祥天女の端嚴の天女と云ふ也

も佛の眷属ありて法氣法と

てうらうらうらうと云ふ也

うらうらうらうと云ふ也

瑠璃金山宝萃光吉祥 功徳

海如来 最勝王經大吉祥天女品 十八

吉祥天女有財城有園其名曰妙

萃福光園莊嚴殿七宝宮殿

瑩六銖其中在天女右摩訶

室利提佐月顔園融也秋空

拂雲花姿妙艶也春林増白

五色雲上馬腦宝瓶出珍寶

千葉宝蓋妙樂諸天作供養

尼牟捧如意珠隨願雨財

宝右掌牟印施无畏任願



依<sub>レ</sub>怖<sub>レ</sub>畏<sub>レ</sub>或<sub>ニ</sub>歡喜地之菩薩鎮<sub>ト云フ</sub>  
生如來家或<sub>ニ</sub>不動地之薩埵  
妙<sub>ク</sub>遊<sub>ニ</sub>无相門<sub>ニ</sub>

張<sub>レ</sub>注<sub>ス</sub>是<sub>レ</sub>世<sub>ノ</sub>中<sub>ニ</sub>乃<sub>レ</sub>女<sub>ノ</sub>也<sub>ト</sub>述<sub>ス</sub>  
も<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>け<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>フ</sub>  
祥<sub>ニ</sub>天女<sub>ノ</sub>と<sub>レ</sub>思<sub>フ</sub>る<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>物<sub>ノ</sub>り<sub>レ</sub>わ  
と<sub>レ</sub>あり<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>法<sub>ヲ</sub>り<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>と  
多<sub>ク</sub>う<sub>レ</sub>方<sub>ヲ</sub>あ<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>か  
あ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>か

弘安源氏論議云

四番 問云 凡<sub>レ</sub>花<sub>ノ</sub>藤<sub>ノ</sub>節<sub>ノ</sub>也

吉祥<sub>ニ</sub>天女<sub>ノ</sub>と<sub>レ</sub>思<sub>フ</sub>る<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>は  
乃<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>そ  
う<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>事<sub>ト</sub>  
と<sub>レ</sub>り

卷之

右兼行部

う<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>事<sub>ト</sub>  
乃<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>そ







かゝつて皆集會す其時  
極好女息姪とて可れり  
これよりりぬ井乃方口十  
八千九百里とて大海乃  
其時又王曰國王大海より  
て好女とて可れり  
唯一の

判云危方より可多のり  
付中統さ世の用り  
次よりとて

式部より可多のり  
式了通ハ六位のり  
式十之段 歌中將領  
和云高 記行のり

神の事  
新田道儒業次第事







此輩之方略乃宣言と慕りて  
式ア有りと課試せりや  
又入學乃衆此中一と云く  
然亦此れ時特士是と舉とれ  
と入學察よと云てそれと云  
ろじ史記と云ふ得る者及  
第して 擬文章 生り補と  
其貞女人は人式部有り  
と云て又云るる子詩賦と

此及才乃人則文章生る  
補と是と進士と云る或は  
前して云て勅頭と云る  
云は後乃る事わり武文  
章生り補する此後此れに  
方略の宣言と慕り課試と  
云ふ例られ有り進士は時  
勢集りたりと云る方略宣言  
旨と云ふれは方略の試也



文章生方略ノ宣旨と蒙事  
猷策之例ハ尚職の時と御  
乃掾と教佐の時と（京官ハ  
記する後猷策せしむる先例）  
或は文章生文（一）得業ハ  
物して課試の例とれり  
或は文章生（一）御して方  
略の試（一）とよむるの例とれ  
ありけり（女書）と云ふ

ありし一は中一は

藤成の御

何事と云ふりしとありしとありしと  
くし

元 中十六段の御

和云志もつたの事と云ふ



才六段友成より細とらんし  
何事しとらんしとらんと思ひ  
らとらんしとらんしとらんと思ひ  
とらんしとらんしとらんと思ひ  
とらんしとらんしとらんと思ひ  
とらんしとらんしとらんと思ひ  
とらんしとらんしとらんと思ひ  
とらんしとらんしとらんと思ひ

よの文章生れの時  
是より友成よりお終し

友成よりお終し  
事しとらんしとらんと思ひ  
の翰林学士より得業生より  
来れ 何れとらんしとらんと思ひ  
来れとらんしとらんと思ひ

のりお終し  
のりお終し  
のりお終し  
のりお終し  
のりお終し  
のりお終し  
のりお終し  
のりお終し







と契しつて

おきつて

式アツク御座れらる

うらやまのたう多し

友式部のおつひさあといふ

のうらやまは

神しつての道は文集に

秦中吟といふ

似合ふといふ

と又嫁娶露顔の礼といふ事

女御の内以下といふ事

何 両道 富家女輕其夫貧家女若於姑と

いふ事(我が妻とこれの如)

二乃道といふ事

樂王れ秦中吟の中此今句

二乃道といふ事

家の女とれ得夫といふ事

と幼らる家の女と嫁娶といふ事



事のいふさへもあつねさしりし  
届く事ゆげともはるるの其  
まよかろくしよるあつねさしり  
家の女は婿礼をいさやらり  
うささやあれし事あつね  
いそのあつねさしりあつね  
いふさへもあつねさしりあつね  
よよりて式よりあつねさしり  
いふさへもあつねさしりあつね

いふさへも

自氏文集

秦中吟 奥入河海

我之

天下無正声  
人間無正色  
規色非相遠  
貪為時所弃  
紅樓富家女  
見久不欽年

悦耳即為娛  
悦目即為姝  
貪富則有殊  
富為時所趨  
金縷繡羅襦  
嬌痴二八初



女兄未用口 已嫁不須史  
 縁窓貧家女 寐寔二十餘  
 荆釵不直錢 衣上無真珠  
 幾回人欲婢 臨自又踰厨  
 主人會良媒 置酒滿玉壺  
 四座且勿飲 聽我欲兩途  
 富家女易嫁 富早輕其夫  
 貧家女難嫁 嫁脫孝於姑  
 聞君欲娶婦 欲娶意如何

石さくうらとけりても

殆ホトシロ

かりあわれんともかろて

け女の父持たててアウ所かれん  
 け女の母アウ事とん  
 け女の母アウ事とん

け女の母アウ事とん  
 け女の母アウ事とん



Sei Musashi no Purotanu de wa

女に〜〜〜ゆゆ

My〜〜〜Sawara

我が〜〜〜理のゆゆ

ゆゆ〜ゆゆ

は女に〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆ〜ゆゆ

ゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

花鳥の折腰のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

集のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

作文のゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

是のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆの女に〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

と者のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



可海よりいふんと付女と物と乃  
后理よりいふと別と乃  
貴名われしはやうの可れよま  
後よりいふとあはれなり  
可もわれしとさくつと  
書みよといふ女のさういふ  
人といふと源氏頼中將  
さこのさういふ君あらのさあに  
さういふさういふさういふ

と

さういふさういふさういふ

花と戸と

女と神といふと

さういふさういふさういふ  
さういふさういふさういふ  
友式よりいふと  
多約われしとさういふ  
さういふさういふさういふ



君の心はさういふ程に  
と 花の葉よりさうして  
ひたひたの心はさうして  
ひたひたの心はさうして

紙の心はさうして  
乃心

弄方の男子の心はさうして  
さうしてさうしてさうして  
さうしてさうしてさうして

葉の心はさうして  
或はさうしてさうして  
花の心はさうして  
物よりさうして

私にさうして  
花の心はさうして  
乃心



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

乃らりしとらちしと

しあ後のまじりしと

乃中將のとりと

とらちしと

心ええと

親中將のむすこ

とらちしと

やとらちしと

とらちしと



有<sup>一</sup>或<sup>一</sup>乃<sup>一</sup>也<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>よ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>る<sup>一</sup>御<sup>一</sup>  
し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

こ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

也<sup>一</sup>後<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>来<sup>一</sup>よ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

の<sup>一</sup>御<sup>一</sup>前<sup>一</sup>よ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

物<sup>一</sup>乃<sup>一</sup>多<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

も<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

う<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>と<sup>一</sup>ゆ<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ぬ<sup>一</sup>

有<sup>一</sup>或<sup>一</sup>乃<sup>一</sup>は<sup>一</sup>録<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

方<sup>一</sup>よ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

つ<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

あ<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

き<sup>一</sup>り<sup>一</sup>の<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>久<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>

ぬ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>こ<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>し<sup>一</sup>は<sup>一</sup>い<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>い<sup>一</sup>り<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>り<sup>一</sup>



らぎいひたおれ御(5man)  
又よきあるまじき事  
うれき時より居りあはぬに  
し事よかむしとすし  
しよ(5man) 5man

か  
徳(5)乃女(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
あしち(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
ま(5)の(5)事(5)の(5)事(5)

義(5)曰(5)其(5)人(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
し(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
史(5)記(5)乃(5)筆(5)法(5)

世(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
汝(5)女(5)れ(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
し(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
名(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
久(5)し(5)の(5)事(5)の(5)事(5)  
恨(5)み(5)の(5)事(5)の(5)事(5)







用病

紙注 箋亦一日一服病状

とのと 少書同前

あゝ福門のさうやととが

極熱乃草葉と服 延

式云八十種ノ草葉九回種草

葉中蒜と芝極熱乃草葉

又食菜と雜菜と云

河海云 延式云 八十種

と

美いと移しはよ 共々

なるとゆりすられゆりやう

日よりハ女侍とみりゆりゆり

てもるもれハ出ころゆり

と

ひんたんと



并

わさしあつぬまつあつにさる御  
のくゆまをりくくはるく源氏  
由兄弟れ中りめてくみやれ  
しとせ

さう清りあつひめて

秘

源と共りくまをくけ清りく  
を川くくくくはるく  
たりきて念はくのゆあつ

かこや

秘

源乃と名難義あり事しと

りの公り

秘

より実子もてもあれと

たおさくはれと

秘

源置あり

ひけらるれ実又口を片よは源と

くけらるの源と

かかたれをく

秘

くまのくまき事しとけれ



まきては我よりよのこにおと我は  
やうめー居て今いね梅まうとし

かれ母まの

元 元 元ふか上の事し

同 同 夕ふかれとれとと源の居ひ出

まていぬさもあれととつらり出  
ての居まうりゆつととつらり  
とつらり

私云事之まうしてつらり事の上  
しり夕鳥とれ事との居ひと  
れ初かのはく君のあはれよひ  
を現しゆくつ我ひれやう。つら  
う今人の根ととたよとあひら  
かつら事れまうつらりつらり事しつらり



うりてきしん事せいのほし観  
りてむろくも人のいみじき  
ほりあしきうめりしうり  
たうりこのほしせれは事  
とのほし

かたわし

<sup>秘</sup>又うたしきしりきほし  
積もあし

むろくは実又内ちたれ事し

あにおうすて

源のむろくも  
実又内ちたれ事し  
のほし

ほし

ほしり事ありあまてしり

人うたえれ人

<sup>ほ</sup>むろくの君室のみり  
ていりり



を  
兵のふまれ北方をくひひてよ  
うりぬくふいとく

秘  
真実を告ぐるまれ宗を味まで  
こ解さく

因  
おろり夕なりれむろの人はぬ  
とこひーの赤くれ源れ視し  
ふりりーり

まつろめいふとく  
むろの赤と源のやめはよん

秘  
褒美ーてのほよん

おろりーかすはろくーて  
因  
ふおろりもあつらからゆす  
とこひーかひもひら  
とのほよん

たふまーまとのほよ  
ちれまて源の視し

あーまのんろーかひま  
因  
夕なりれぬ



秘

夕暮り此源のさうとらんとして  
尸さうしん

こくはくして

秘

山さりののしん

清くさうと花うさぬさせ

秘

源のさうらうしんげんさうの  
尸とん 秘 弁同

かのたしん

秘

田ちんし 弁

ちおのあまこさぬのたうり

秘 弁

秘 弁 ちおのあま

をこのたしんをさるる

つうしん

秘

ひまの内のちんさくたうり

しんめし源の清くさうを

うさうのせきあかり

しん



ららわひてかろく 禮

<sup>秘</sup> ころこしと子より母のし業

まはるをも何事をも清くさるる

して

<sup>秘</sup> 実父の許儀よりせよ

へられと 同日

<sup>秘</sup> 是より内ち此れより

氏よりタより此より

私云は是より此義より

女ハ三子とくく物り

<sup>何</sup> 三從 婦人從人者也

幼從父 嫁從夫 老從子 礼記

<sup>秘</sup> 礼記婦人三從久者之幼則從父

則從夫 死從子 注云從上謂順

<sup>秘</sup> 其教令

儀礼云婦人有三從之儀







はいてさくさくさくさくさくさく  
ん事ハ

<sup>何</sup> 湯水をとろてや湯水とはゆ嫁

<sup>秘</sup> 老母ふらりて人よ志さく事せ

今ハ内太臣の義りりうさくさ  
へられそのたいをたていさめ  
ひれまういさくさくさくさくハ  
源のうららのいゆせ

<sup>因</sup> 是ハ源れむううと実事なるは

とさくさくさくさくさくさく  
とてりり内太臣れとさくさく  
とく実事ありはまありさくさ



ゆゑにうらみかたしむる事あるは  
もろく事あるは今ハ其又  
てしる事ありの事なり  
秘園半木の事なり

うらみかたしむる事

同 せいしむる事なり

是ハげんじのうらみかたしむる  
事ありしにうらみかたしむる  
れどもしる事ありしにうらみかたしむる  
まじ事ハさしむる事ありしに  
うらみかたしむる事ありしに  
させしむる事ありしに  
うらみかたしむる事ありしに



とゆふ

井  
らめいのはけりてはさ楽院の  
あまの事ありたといへり  
むさしむしむさしむさしむさし  
あり日をさるる

松

のち片のさるるに業の上は  
あといへりてはけりてはさ楽院の

私には風をたふす事ありては  
らるるははのち片のさるるに

かゝのさるるのさるるに

かゝのさるるのさるるに

業の上は

は

は風をたふす事ありては



おんそりれちりく

秘

くまつくりし中そて終り

をむろつ下のトれとてしよて

始し心ちたうしりハのいぬ

かたし

らりしり

穿籠

む

穿籠せ歎とハ穿少こめををね

幾かむりやまのさるまよこ

めたり歎こまこ人の目おらむ事

しよしらりやうしよまのさるハ

あらぬこ

弁

穿籠多歎とこめとくさるハ

ましハ下れやうしりあけり歎

よてハ井義あひあけり歎

口しそ又まらんこし

秘

穿籠多し籠し入れ歎と

穿しりしりしと



私云おれそまうのまづくし高侍を  
不削 **打**平しよむせひともあり  
職なりむららの君ともみえ  
きりまうと女侍も交うとれ振上  
必死をかりあういふもか  
仍たしてしむいふ高侍か  
なうして里ましよとて源れ  
わのおまさんし源よの白大  
にうて拵もや守籠のまじ

かーくくしある

源のまじもえとらうし  
源よとゆら尺の思よとく  
うらこひりされ  
美実ハ俊長よあすまはら  
さひの字かーと抱れこ  
私云うらこひの字にまじあり







ね  
採

いっさーりさくれてみるよ

たのしくあそぶのさうさ

秘

くわあふあふささ

図

思ふふあそびさ

九

たのしくあそぶのさうさ

人のあそびさ

私云はあそびさあそびさあそびさ

あそびさあそびさあそびさあそびさ

のあそびさ

あそびさあそびさあそびさ

秘

あそびさあそびさ

源のあそびさあそびさあそびさ

あそびさあそびさあそびさあそびさ

あそびさあそびさ



源のゆきふれいせつるむろく  
ゆれいしんと人の推量とらひし  
ゆゆいり思ひまじ

あんいりあつるむし

ほ葉原

人の推量のこくむろくと実  
事なりありてつしむるゆ  
れおふと人の推量いりあ  
ゆとあふりりあつるむし

ほらけいり

かのたくりいそしゆいれ

ゆちたくりゆのゆいりれい  
らせんとおふと

あふまつりれとらまてけあつる



まじく

おろろよぬきしゆりつひて  
しうんまいたれぬもあつれりま  
つろしつらつろくゆのまら  
りとおろろしつらつろのまら  
ちたのろろしつろつとゆのま  
おろろくせしつろつとゆ  
せおまあつたろろのまつと  
しつろつあつり

うらも

秘  
人ハねろろくつろつとせ

ひつろく

秘  
たろろろろろ

ゆろろろろ

秘  
八月あり

月ろろ

秘  
九月ろろ十月ろろ

秘  
十月ろろ

カコナフキ



うらやまのつとむ

秘 四月廿二日 川崎より

とくにうらやまのつとむ

まこととていふ

秘 四月廿二日

うらやまのつとむ

秘 四月廿二日 資日便

うらやまのつとむ

うらやまのつとむ

うらやまのつとむ 資日便

秘 四月廿二日

うらやまのつとむ

うらやまのつとむ

うらやまのつとむ

うらやまのつとむ

秘 四月廿二日

うらやまのつとむ

うらやまのつとむ



秘 タニりのさゆし

あやまきとてしつゝあはつり

されまてゆふさうれ事とて子

由とれぬほらからハ

栞本下むらかられ実の兄弟を

源のぬあしうりまれのタニりれや

をえんさうりりりろろぬとてん

りしあくせしるまきるとしり

栞中ぬんとけり

栞本

うらつちうりゆを

兄弟しきとてかハ本れ俄々

あしぬえさうとてん

このぬつひまて

秘 うちれりれぬ使とてかハ本

さうりゆつり

かとしつていす

秘 栞中ぬハ実兄弟をれとてん



ひびき

因

柳と聞くと兄貴方の西むきの

しし海了いあふいしまいー

かふよときいさる

月のあられおろろれまきりかされて

何

月中有河い水上有桂樹高五尺

又下有二人斫樹姓吳名對又西河

人也年十六十得仙長生兼名苑

也

夏るれいまもーしてさうりか

月のうられひけふかされて惠名苑

奇

祇今葉々桂のうけいさーとの

陰あつー

奇

祇月桂 花の桂も

秘

花の桂の本あつー

又まき入て

秘

りりはあそひあひ八介らさ

もあふいせ

因

お化人まてけさうーらー時を



中へあつりしをいふ事しりかは  
さあし今ハ兄ギとありありハ  
ちりしきいふく  
しりしきいふく

たうられか一の事よ物たる  
始りしれつしきいふく

事柄まとして

<sup>身</sup>まうつれ方よありし  
<sup>秘</sup>さうぬんく夕島とれいこあられ

乃らいしし新しきいふく

<sup>秘</sup>母れ親し美 秘母の親ふれハ早下

——してしり

とふ——くふまぬさぬ

<sup>美</sup>意の浮みぬさぬ

きし清きあしおし思ひふいふ

<sup>美</sup>弁尼の中きらし——ふさぬ

この母れ親し

えれしりしきいふく



——と

●  
業

申書れ新しはよとらひてはゆめ三京  
院よとらひてはひりし事とらひ

けしゆし事なるもの

●  
業

浮船の二重院よからまじき事  
文のおこしりし事しは事し  
申すことばはかたはらありし

是は浮船とらひてはひりし事とらひ  
なまじきし事とらひ

あまきうらまひて

●  
業

并し

この文のつらきことしはひりし事とらひ  
まじき事とらひ

秘

白文の事し

●  
業  
并し

かたせわしつらき事

かたせわし

あまきうらまひてはひりし事とらひ  
らひめし事とらひ  
まじき事とらひ



白美の侍ありて

ふんすらの事あり

秘 中まのまろくふん

くろふりしとまろくふん

美 中まの白美のまろくふん

あくまろくふん

たいぬりしとまろく

大捕まの中まの女房

さうやまろくふん

まの浮あし中まの

事とまろくふん

あまのまろくふん

中まのまろくふん

のまのまろくふん

ありまろくふん

あれはまろくふん

まろくふん

秘 母のまろくふん















昇 苑あり

まはさしむる事にては

浮ぬるをいふ事なり

まじり事なる事なり

まじりては

薫る自らぬ

なほして人なり

薫る自らの思ふ事なり

まじりては

薫る自らの思ふ事なり

なほして人なり

まじりては

薫る自らの思ふ事なり

まじりては

まじりては

薫る自らの思ふ事なり

まじりては

薫る自らの思ふ事なり



みる〜川かへんかといふ海り〜けあり哉  
あま〜とよ〜川か〜みえ

光 沖らうらさか感あま〜と

光 意ゆかかくあひ〜人のいふぬ  
まのなま〜ひくふ〜

秘 白文乃事ゆ〜

集 浮舟のなま〜さ〜とよ白  
とよゆ〜祭後〜あり  
松け浮舟の事〜代の事〜あり

き〜き〜つあてゆ〜  
れ事ゆ〜〜後りあ〜  
海〜〜してはあ〜  
あ〜ふ〜けあ〜  
人〜

光 あま〜りゆきれ詞〜

集 母乃ひ〜

秘 意〜人〜れ〜  
人〜



軍のつらさこそ知る

案

軍のつらさこそ知る

一とよきことなり

わらわのつらさこそ知る

秘

女二美のつらさこそ知る

弁

女二美のつらさこそ知る

とよきことなり

てとよきことなり

あしとよきことなり

日影のつらさこそ知る

案

日影のつらさこそ知る

さしとよきことなり

さしとよきことなり

一とよきことなり

わらわのつらさこそ知る

秘

わらわのつらさこそ知る

いとおきことなり

秘

いとおきことなり











美

愛鏡の妻なる事ごとくはなほなほ

とありあはれはなほあり

美

花よりなりよあり

なやましとてはなほあり

美

浮舟の煙たなほなるものあり

なほしとてはなほあり

秘

人の魂

愛の所の事なる事ごとくはなほあり

秘

花よりなりよあり

花よりなりよあり

なほしとてはなほあり

なほしとてはなほあり

なほしとてはなほあり

なほしとてはなほあり

美

花よりなりよあり

花よりなりよあり

花よりなりよあり

美

花よりなりよあり



あつりー日さいあひそりー清つるひに

花  
あつるあれはり事し

秘  
まんのとおれー使し

とれーとすいん

まの酒もくしは使るくをうむりれ

使しとらあふじ

か乃少捕う家もて

花  
少捕ハ改り少捕し

秘  
大日記し 兼

兼

我乃少捕まて 白くまの改り少捕

大日記兼存事し

此少捕ハまのくみ仲信くむし

まうといあめーふこいハまひーまらみ

そしと

花  
まの清使ハ少捕くまて使ひのみ

まうといハ真人く人と梅すり祝

まの酒もくしは使るくをうむりれ

とれーとすいん



白文の使れはしるし

わらわのくちやうくちあふまゝのしるし

葦の節かたよし

あふまゝのしるし

いさゝかありはれし不審

あふまゝ

白とあふまゝのしるし

<sup>秘</sup>あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

<sup>秘</sup>

あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

あふまゝのしるし

<sup>秘</sup>あふまゝ

あふまゝのしるし



と自れ使に、日つをけりておーそりし  
んりんのすまれ家やんし

花  
んあちまのけちかゝあぬし

舟  
んあちまのけちかゝあぬし

けちかゝあぬし

あぬし

あぬし

あぬし

あぬし

ゆりつるしよ

あぬし

あぬし

あぬし

あぬし

あぬし

あぬし

あぬし

あぬし

業



弟も地へ

殿 ありりて

<sup>秘</sup> 六条院より薫乃の出逢

私後 ありりて 薫乃 三條文成し

し 六条院 ありりて

六条院 ありりて 薫乃 出逢し

<sup>善</sup> 明石中文 六条院へ ありりて

ありりて ありりて

<sup>善</sup> 宇治乃 ありりて ありりて

ありりて

ありりて

ありりて

ありりて

ありりて

ありりて

<sup>秘</sup> ありりて

ありりて

ありりて



秘

子細ありてと指しよ

蓋の海方々軌久も人知てか

行るは

宮乃まいありてあやま

秘

明る中あは

齊

申文れ事

え多らとみかまらりて

今とれえ多らるて明

清り腹あり

か乃内紀の上宮たのむ

何

上宮ハ政定ハ政官

亮字ニ去身あり

秘

政官まて詔書云

政官ハ武部少将あり

るひまふいあり

ふし

齊

河海ニんあり

こ乃清りて



<sup>秘</sup> 宇治よりれぬ事

文そのいふくすま <sup>美</sup> 文の句

<sup>秘</sup> 中東院の中あり — 中東の事

— 中東の事

大ねの清きうのいふ

<sup>秘</sup> 中東の事 <sup>美</sup> 中東の事

中東の事

<sup>美</sup> 白の句 <sup>美</sup> 中東の事

中東の事

中東の事

中東の事

中東の事

中東の事

中東の事

中東の事

<sup>秘</sup> 中東の事

中東の事

中東の事



何 曹司 府曹司

兼 董也 何海曹司 清子

松 曹司といふ義ありしは清子也

松 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

松 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を

兼 白の清らんとおふて夕雲を



神氣のゆる中々市煙のいひ

たしなまことさねよこそまうりうひて

等 夕方の白まどはまことまうりて退

出

あけくくくまうりあひぬ

車 夕方のくくく

私 夕方のまじりし六条尻のひび

このあひまじりておま

秘 蒸くこるまじりてふしはとくれまじり私ひ

あうくくくくくくくくく

道方まじりまじりまじりまじり

まじり

養 字法への使入

湯あまじりまじりてまじりまじりまじり

り

蒸乃前點のまじりまじりまじり

中まじりまじりまじりまじりまじり

ゆへの使入まじりまじりまじり







ちか合のま

ゆつてみをはりしとわいしとてあふか

はるのむせとてしとてあふか

あはしとてしとてあふか

さひとてしとてあふか

これ又書はれり

満とてしとてあふか

董乃の白の事とてあふか

井あふひとてあふか

あふれん

浮乃のうとてあふか

うつりやとてあふか

あふんとてあふか

あふれんとてあふか

又凡流のうとてあふか

ゆつてしとてあふか

是より白の事とてあふか

あふれんとてあふか



美

申考を中へらへし居ひし事し  
めそありていしてゆつりしるめしと

これにき居のつよひの事とそり

ふいの清くされし事と

秘

申考の事し美

申考へハ蒸れをくりぬくゆもふれと  
おをくりし居る事し

そまハいしりしりて

美

申考ハ蒸れをひぬかりし事と

かへし居る人ふまへしとそり

そりぬく此のゆありし事

秘

内者不疾とそり

美

申考ハふるりれしちひれ辨めし事

と申されし事申へしゆありし事

ふかへし事めし蒸にふる事

りたれとふりし事とそりし事

ふかへし事ありし事

ふかへし事とそりし事



ふむーとてねまきみさすてよ  
とハけくすす心ーからいふみーりた  
とて我らあふーきかたはたしん後  
ふくんあーーとてくきよをさあれま  
と我らうーいん

おろけくたやーく  
白文れけー何あわーくおーしあみ  
まひの人ーいあまーま  
たーやーりたきー

業  
宇治くや白たーいさちのふーや

く心くれあけさうの備

業  
宇治くをさー

をさー下すろのられあし

業  
白れからさるーまーいさる命す

ひーをさー出りあてえおんせけし

やまのなまき

夜白若中  
のりく  
まひーすの  
申す

申すくうひぬほーはえおつせの所か  
まのるーまあわーくあひーし



うらみゆくしとるあつし

女れいこ地思ふは

<sup>義</sup> 浮みこつちや董よれ字居人たせし  
州の事とさるおろし

ありこれおの人のゆかしむら

<sup>義</sup> られ人のありこむいよ

らうたまにさるさるわつし

<sup>義</sup> 浮れおのゆとつち

こ乃文れ清くぐめてい

<sup>何</sup> 具一具なりん

<sup>秘</sup> 浮れおのゆれ清く具もてゆし

思ふことゆつちゆく

<sup>義</sup> 董よれおのゆつちとてゆりゆ

わくお地一ゆし

<sup>義</sup> ここのゆなとゆし

ゆしとゆしとるさるゆしとゆしと

<sup>秘</sup> 中其まらしめせしゆしとゆしと

ましとゆし











かろくはひよこりあつてあふら

式より捕し道とて仲信うつてと書

る清方の事とてさひにしとて合は

董への様りしてさるる

ちとけとてはくううら

董れ月多しけは力ありて

とててくううくささひあみ

かこめは清つらひの事いりて

董  
うた

おろしとて

白木の事ゆへにさるる

こいさるる

董  
波こゆりてとて浪東の事い

かりひまふれ

董  
まるとしてはさるる

妻の松山はしとて

董  
我とてとてはさるる

こいさるる



松  
ま乃松山乃車縁ふれとすく

人よとて世をよむ

<sup>秘</sup>まをゆきてそり

<sup>兼</sup>これと人よみきてわく世をよむと

<sup>并</sup>けはこゆふのふれゆふとて人よむと

うあふとふれまると思ふゆあり

ゆのやとらぬ

浮松乃ゆ

あまのくのやうあけゆきハ

おりうらあつらひう



見落すてすすふら〜の〜

<sup>秘</sup> 董の奥ありし〜

うけて〜

<sup>業</sup> 董の残は〜

〜

りのふら〜

<sup>秘</sup> 浮ぬらぬし

ふら〜

<sup>業</sup> 又と〜

望ふ〜

浮松の洞

あや〜

<sup>業</sup> ちとら中〜

弟子地し

ふら〜

<sup>秘</sup> 弟子地し〜

れ〜

<sup>業</sup> ちとらみ〜



お新お許しとてきり

あふいふよーいふいふいふいふいふいふいふ

ちとら祝し

とよいおろきーい

甚の自れ事とてうりうりおひし

おりてさとしゆみておいのほりす

<sup>白筆</sup> 浮舟の舟し

こりんーのー思ひん

<sup>秘</sup> ゆるほととと

しりかまてありきりー

ふれか中し自れこころうとておひし

ちとらあひのむららまて

<sup>秘</sup> ちとらきと澄くつらとてきりーおのほ

あつーー并

かとしくおほけりていきうーくえうー

<sup>秘</sup> こととトしうお事ありとて并

女にいり乃らまいしりうーをうせ

右近うらひのし後のまよおひし











申しうに乃清いさねん

<sup>筆</sup> 舟れあてし大匠うしつねに

らうらひまうし

をまらうにあらし

<sup>筆</sup> 董もより活めされし白くまうし

いすひたり

<sup>秘</sup> 約短し 昇筆

うきそめれ海しういもてか

約短く詞をよみおきて

さきそし浮みよしうりて云

いそやいしうき

<sup>筆</sup> 二れよりい白紙事と約短うし

人乃くねるしうきうけかた

<sup>花</sup> ちおのむく活りんそて

いそく事とらふし

<sup>筆</sup> 約短ハ蓋乃字







白くあふれ廻のまじ

とろがだんよあがりてしるしうれあふ  
あしぞいみし

あしぞいみし  
西しり書れ時御今何し  
あしぞいみし

あしぞいみし  
白くあふれ廻のまじ  
白くあふれ廻のまじ  
あしぞいみし  
あしぞいみし

浮船の心白まへ

あしぞいみし  
あしぞいみし

あしぞいみし  
あしぞいみし

あしぞいみし

あしぞいみし  
あしぞいみし

あしぞいみし



白丸何しとてのそくかきし  
ととのわんたるしれりまに  
まうりいふてされる也

浮舟の詞

かくさき事ほかさうい

忠臣不事二君 貞女不交二夫 忠記

うれおるしうしう 秘 ちとじ

善 右近うなりくさひか詞し

善 公留とくおるしう 善 の

ふしし清物語しつまを

おちぬい事しとゆめふみ

浮舟れ平牛いふ中しとゆはと

かひまことせし魂ゆし

善 白の事の後く物さうしとゆはと

いふとゆふふし

か 善 ちとじとゆはと

いふ人清澄人せよ

いふとゆふふし 善 ちとじとゆはと



尸や心花のまじりて

おのけりあめ

浮ぬれあやまらばいふはゆへうらなほ

願ふりいふのあはれとて

<sup>秘</sup>文とくすくす

私意より波こゆりよとく

をきとて

このたぐいしつと移りて

<sup>筆</sup>右近う浮ぬれ

れこれのしとれす

うと移りて

女房よおとりて

心合人の女とて

願ふり

<sup>秘</sup>心合人

けうとて

<sup>何</sup>雑事

くしてたり



浮舟はなほまよひてふかし

そのあふいひいふし

よののくれきつるまへあじしきき  
なふういふれやまひあし

日今人うま老ううさぬかし

月比とこふり

<sup>美</sup>日今人コトキおモ上日ヲ付テ昇進スとい

さのどんせやうやうれあし

何 如能 水常事

<sup>秘</sup>さやうのぶとこふし

北常いよのけのあし

もういしとまうし 是もまはれはるし

ゆくりれあしうりもいとせあし

何 おそあしいよのあしとせはるし

<sup>秘</sup>ちとうはなまあしとせはるし

くそりば日今人あしとせはるし

<sup>美</sup>右とらふあしとせはるし

けういひいふし女の内し



いんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて

ちんごんて



白文

いげれみさふりあまいよ

何 妻ありしをれ日ひらそ松のま

いけりみされてあまそ

松蘿れ奥しし事しまぬのたし

秘 川ありより 弁美曰

とて色かしてしむしこく

浮みれさく思うようぬを

しういげれする人のいれは

いけりひてそなを力となすはま  
何りきれ

何 大和物語云ひしは乃くあま

よ子男二人あり一人はれま

男母はひきしをいひ多ふ

あそれまのんをいひらぬ

り男さしこいひかこら

おしきしめあふりそあ

ふそあつせし思しめ







ふにせむいぬしりしまはしるしわりある  
らまゝのめいしんるるひのしれ  
いしむしやまはありしはすむいし  
しりしひあしりしむるまは  
は川まゝてゆめまるといふをい  
てはりし人まゝてまゝしとよ  
まありしひくしりし人ら  
くおのめいしりしめいし  
めいしあしりしとよ

はひの我まはししめい

まは川 ち名まはしりし

しりしてこりしりしりしりし  
しりしけいしりしりしりし  
はひのめいしりしりしりし  
あしりしりしりしりしりし

いしりしりしりしりしりし  
しりしりしりしりしりし  
しりしりしりしりしりし











ありあつてこそこれひんじんあつた  
てはすゝんいまはあつたあつた

舟  
け河舟舟たをうしりあつた

浮舟の力と推してんは舟れ一息のあつた  
あつた

ありあつたの命のあつた  
舟れいあつたあつたあつた  
浮舟れいあつたあつたあつた  
あつた

いあつたあつたあつたあつた

舟  
あつたあつたあつたあつた

巨舟りあつたあつた

世乃ありあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

舟  
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた











—とせぬまうらうく公がそとと事とせ  
せくとうりり浮子のいせ

うりあまうりあしありぬ

<sup>秘</sup>三月のちるし

あの夜あふ—は八百かへるる—

<sup>秘</sup>まく—み自ま多くもさひ—とて用

—うくふあしれまの夜の中—

<sup>筆</sup>あの夜あふ—任あまむくし

まろまの夜まう—すむくんと

廿八のよ白圓かよむむらひの夜とて

あはれの夜—うりんと自文の夜と

う—ひまよれまの夜

自うりれまの夜

まてあふまう—まはる—まてお—か—ん

<sup>秘</sup>浮ありの夜

<sup>筆</sup>自れまひてまう—と—う—ま浮あれと

いみ—く—な—い—ま—

浮ありの夜



ありまらるる清きしる

養

右道へ廻り給へるゆへに神代に願ひあり  
なりし所は人の心にかうしてかへり  
ふし

さかひのしる

養

白雲一とんとて返すの事しとをみえ  
らひしれ清きなりしり

秘

ととるゆへに白れぬるをかくひくは  
くしりあり

こころりたがしひて

養

赤くしる清きとていそ浮ぬるは  
のりこしとてなりけし

秘

浮ぬるは 白くせそふゆりし  
とめいふし

いぬふしとていそ清し

養

白くぬるをいそふしとていそ  
とていそふしとていそふしとていそ  
りぬるは魚のしるしとていそ



こころいふなげくも

うらまへにさしこし行ふも成ぬ

あまのふれぬ事あるは

まごころにけむりもさしこし成て

自まの浮あめの水にさしこし成て

あまの

かろふれあふこし成て

あまのふれぬ事あるは

あまの

あまのふれぬ事あるは

あまのふれぬ事あるは

あまの

あまのふれぬ事あるは

あまのふれぬ事あるは

あまの

あまのふれぬ事あるは

あまのふれぬ事あるは

あまのふれぬ事あるは







白丸也

ひまわり

時方 出石

からくし

秘 時方

夕えあ

いふふあ

秘 時方 書ぶ

ら

ね

浮

い

美 白

す

あ

な

秘 とき

は







さしびきしゆがうとてふかたもの

ほ 大吹村骨用蟬鳴織婦妊 白氏文集

守家一吹迎人吹放野群牛引犢尾

明詠  
松況

花 さしひきまふ里馴ふりさよこし

心あしうらり

松

大乃都すれさくれさふあわり但山里ひ

ふりともまきつぬし事

ふ浅きくはらりみんとしひさびさ

何さういひききうてぬねとく航し

うしりまうらういぶ情す

華 髪と服のトうりうらうらうらうら

とありのそととらりて

ゆねうとあれすそと何さうとさふし

うしりまうらういぶ

何さう出向とゆねかうせうし

山りのうとれとらりむくうらひ

あふまといふゆねあて

秘 何回むむらうとらり



弁 あ残りじうんきし ま な あ わ り

い ま あ り あ り あ り

何 あ り あ り あ り あ り あ り あ り

ま あ り あ り あ り あ り あ り あ り

ま あ り あ り あ り あ り あ り あ り

ま あ り あ り あ り あ り あ り あ り

ま あ り あ り あ り あ り あ り あ り

ま あ り あ り あ り あ り あ り あ り

花 源 氏 一 本 あ り あ り あ り あ り あ り

大 お 徳 云 事 中 に あ り と あ り

女 と い い て ぬ か い

う つ あ り あ り あ り あ り あ り あ り

そ う の あ り あ り あ り あ り あ り あ り

う つ あ り あ り あ り あ り あ り あ り

し の あ り あ り あ り あ り あ り あ り

は の あ り あ り あ り あ り あ り あ り

あ の あ り あ り あ り あ り あ り あ り

の あ り あ り あ り あ り あ り あ り あ り



乃人の得衣をききてしむるにいとよきお  
くはとつふし白髪もや落人のうらひま  
得衣よきといふゆゑしむるにいとよき  
まやあけりの馬れくはつふおあまれを  
そ又りうひゆくうすきられしうき  
きりふぬといふまにしむるにいとよき  
のより准持ありし

つう唐のゆらめくあやうさうらうの海風を  
<sup>白</sup>れしうまれしうなるまに

<sup>秘</sup>くは道の好みの道ありし

公のうらみ人むのまうして

竹從うまし

いみしうあこしあやうつらりまらうし

<sup>秘</sup>あこあめしき日

いれふ鳥敵鬼汗うりまとし又あこしあ

あこしあなありしまにれれしきえ

心の鬼汗はしして我れああこしあうしの

公あこしあこしあまにれれしきえ



舟  
として鬼津乃のたよりあることを見れば  
あはれめとあふむけの意配鬼津なり  
さし

そしことえきことしを海へさす

秘  
自れ初 私人のいふかきうとえい

うらみ

ありあくるくくくくくく

うれはははははははははは

いぬあーくくくくく

善  
いぬあーくくくくく

自れあーくくくくく

かきくくくくく

自れあーくくくくく

家へてえ

かきくくくくく

秘  
ゆはあかきくくくく

いぬあーくくくくく

自れあーくくくくく







あつたふりて

ゆげとくくくくくくく

なぐくそくくくくく

ゆげくくく

右近 八ひひきりけふり

秘 ちとくくくくくくく

いひのくくく

若ハひり

浮松くく

井ゆげくくくくくく  
取めてくくくくくく  
きくくくくくくく  
かたりあさくくくく  
わりあさくくく

くくくくくくくく

秘 約後せ

くくくくくくく

ゆげくくく

あやくくく

秘 新東海くくく

むごくく

何 吾期 秘 期くくく

おくくくくくく



花 かけ草し 秘

舟 浮舟こらうけつ花をうけ草し

花 花のやりしと整て草し

を舟よらぬらあしけし

花 花とすく草しを舟のこらし

あましき花しうらし

花 白文の舟とあま浮舟と二つし

しうらぬらあまし

うらぬらあまし

白の舟とあまし

心しうらぬらあまし

秘 花の舟とあまし

花 花の舟とあまし

しうらぬらあまし

秘 花の舟とあまし

花 花の舟とあまし

花 花の舟とあまし

花 花の舟とあまし



らりし入水とてうきおし

公あきく

秘

死後乃若くは

母

ふまれし力をいふは

若なりし事と

秘

名をばし

美

力をすて

けり

くけり

らりし

美

き

言

美

中

人

浮

知

名

あ



何

あきとていせみれやりとく鳴く

うらな雲れりえんしとぬされ

私不な川身

をば一乃あゆみなりしやとあまう能す

る上も又しすのらいとあまうなれ

をば一乃あゆみなりしやとあまう能す

何

歩し道死地人余亦如此

経文

屠所羊歩れ事之唐公六羊とね

並て食時女の多みて唐公六羊とね

ゆて殺すことあよとていひて死比もち

うてをきこの言し

又いみしき事とぞ

秘

自まらりの所みし

いよさう人せしし

浮舟の舟し

浮舟

かすこといふ事れ中にさしたるはこれ

らうしきとさうし

秘

入水の公あり







美 夏女浮ぬり事とらんてまよりの女  
とらあふらん

おとろいさう

并 ねとらうてなうてよととまらぬ

いよこし

いれくまうせまふ人のほりまう

秘 蒸れ方りれ事し

美 蒸れ方りれ事し

ふりのまうかまういよまういよ

いれんとぬりまふん

かぬりのこの

美 浮ぬれ味をこほり女産後くる

いふくいとまゆりて

美 母りまうぬりぬりぬりぬりぬり

そのらういも

やほれちと阿闍利あのもし

せりまうれお

誦経乃料し



又ふしりまゝいぢく

<sup>美</sup>浦経乃文とく 私等くう等々みだ  
へうらえ

かきりしおよよめら

浮取れおちりぬりぬらへ

おーあり行じ

<sup>ほみ</sup>のらぬ又いひく事とせむあてに世の  
ゆきくうてぬまうしう

今しよまていさまう事とくすまひ

れそいあくわくしうい

<sup>美</sup>長ハやそて射面あつたれいあはな

公よけりあよるしういあひん裏の事

らていさまう事とくすまひ

ひまよなしし入いさあまうしうい

<sup>秘</sup>け世子れせりぬしあ

ずさるりぬりぬらへ

<sup>美</sup>け視まかありまじくしうい  
とまいすれ浦経の境



ほね  
かひのりとしれそゆふ成らんに秘をきりてわ  
る世つらぬしきみはくくよ

美  
是ハその間まあくなしとあつてきり  
秘事美好し何しあく何事あまき  
くりすりてききふみうはつきて

巻数

補経してきふ巻ねみきいあひり  
やしき

おれえうくはひはきて

秘  
誦経の枝めり

あれあやしくかきしきすふくれ  
はち  
人まはりしくいしあまふにさうとて  
おのりしきあやまきり

秘  
漢書高紀下曰上敬若心動  
いふはつきのしききりんは

美  
め方といふし

れりといふし



兼  
ふれ母乃あはし

くはしとてし

秘  
浮舟のついでに木乃かまはし

兼  
このあの人いさよとてはさしひらき

はしひらきひらきひらきひらきひらき

あつたのさゆはしひらきひらきひらき

我があつたなりかひらきひらきひらき

あつた人てあつたあつたあつた

申由ふえあつたあつたあつたあつた

いしとてはれしてはしひらきひらき

あつたはしひらきひらきひらきひらき

えいひらきひらきひらき

くわしあつたあつたあつたあつた

右進つ

お思ふ人のあつたあつた

兼  
浮舟はあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた



美 一方（心）は身も是しけりしを

なふふふふをふふふふふふふふ

美 浮ぬりけりや 海も七さひらけりや







